

小六

楊ヤナギの父親おとうさんのものであった。

記しされた刻き印いんは、まぎれまじりもなく、

水滴すいの片かたすみすみに、つつましく

楊ヤナギは、あっとおどろいた。

水滴すいの裏うらを返かへしたとき、

